

当院では、AI技術を活用した 最新の内視鏡画像診断支援システムを導入しています



A I 内視鏡画像診断支援システムとは

AI技術を活用して、病変の画像を膨大に学習させたソフトウェアが、内視鏡診断支援システムの装置にインストールされています。

食道、胃、大腸の内視鏡検査の映像を検査中リアルタイムにモニタリングして、病変が疑われる対象が観察モニター上に映ると、その領域を青色の枠で囲って音で知らせて検出支援します。更に大腸では、ポリープが非腫瘍性（良性）か腫瘍性（悪性）かを鑑別する機能もあります。『**内視鏡専門医の目**』と『**診断支援システムの目**』、この両方でしっかりと確認しながら、質の高い内視鏡検査を提供します。



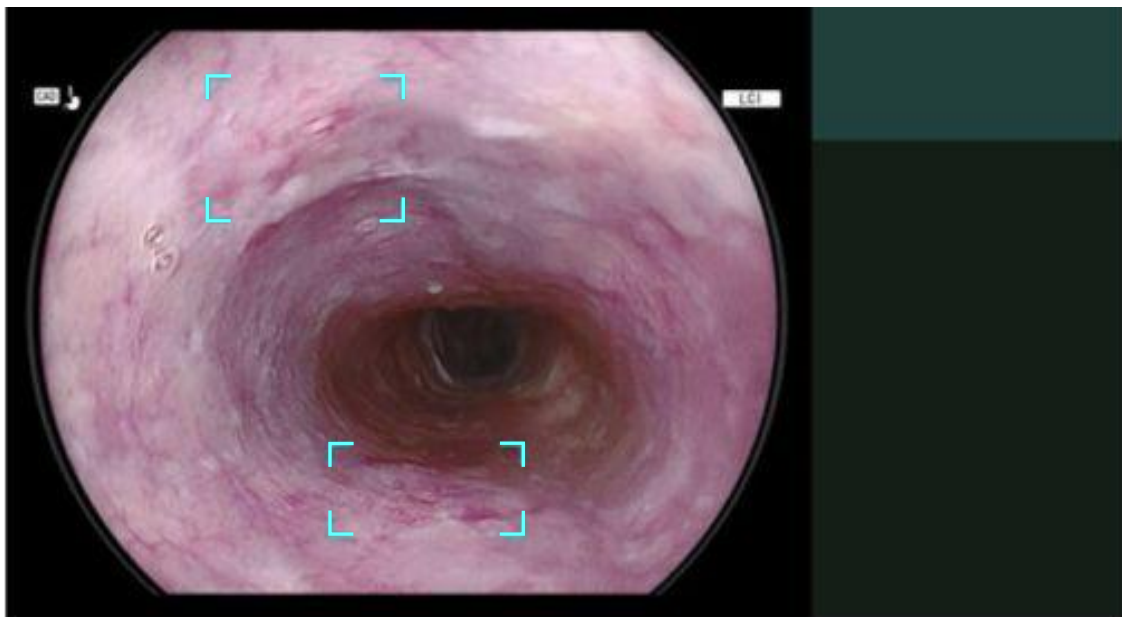
軟性内視鏡
(胃カメラ/大腸カメラ)

観察モニター

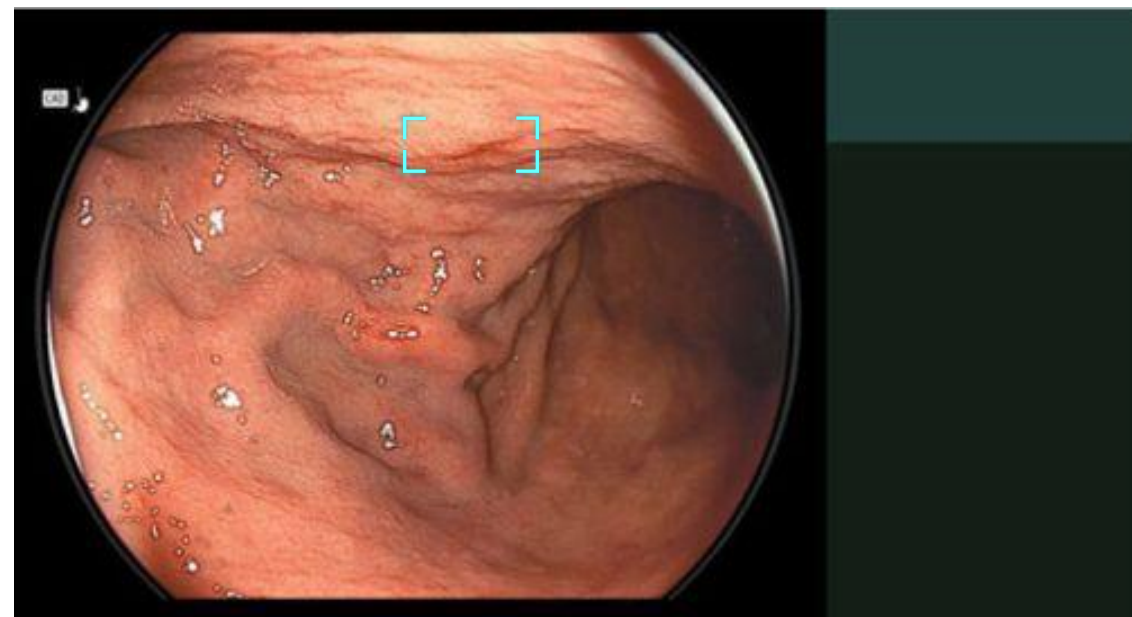
内視鏡システム

診断支援システム


食道扁平上皮癌疑い領域



胃腫瘍性病変疑い領域




※ 特殊な光を当てて画像処理をしているため、粘膜の本来の色とは異なる色で表示しています。

食道扁平上皮癌、胃腫瘍性病変の可能性のある領域を検出すると、その結果を内視鏡画像に重ねて検出ボックス（[]）と報知音  で知らせます。対象が画面に映っている間は、検出ボックスで追いつけます。対象が複数ある場合にもそれぞれ検出ボックスで追いつけます。

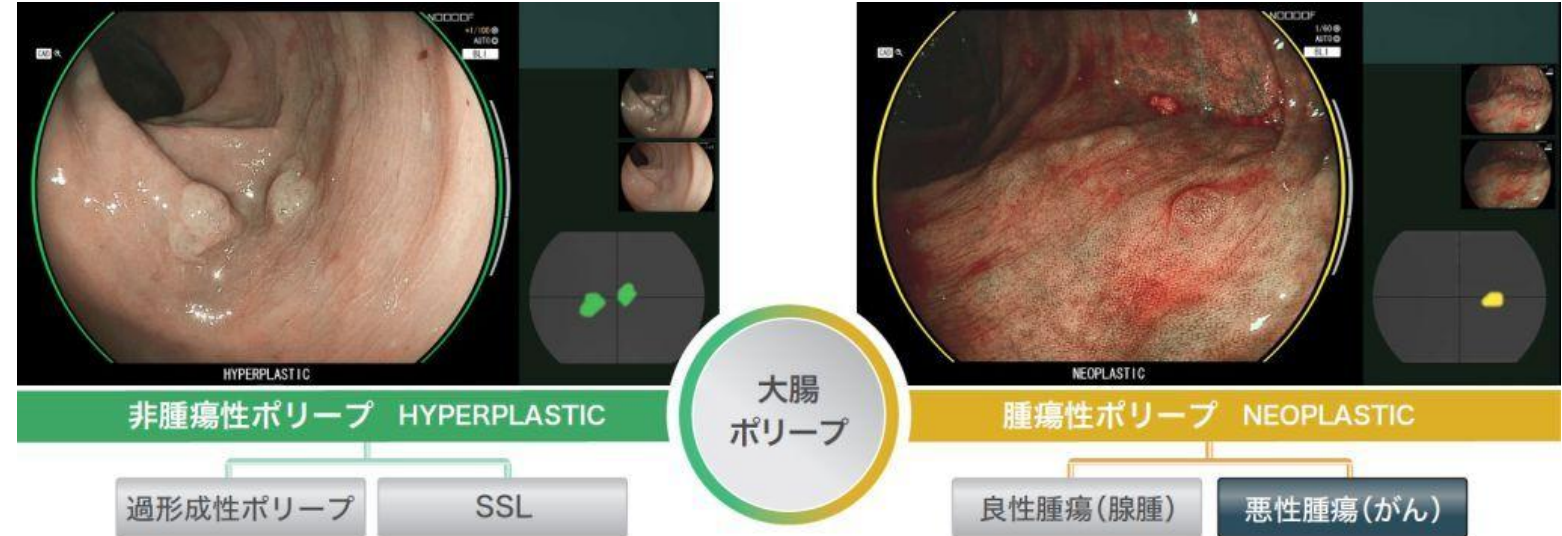
検出支援モード



※ 特殊な光を当てて画像処理をしているため、粘膜の本来の色とは異なる色で表示しています。

大腸ポリープの可能性のある領域を検出すると、その結果を内視鏡画像に重ねて検出ボックス（ ）と報知音  で知らせます。

鑑別支援モード



※ 特殊な光を当てて画像処理をしているため、粘膜の本来の色とは異なる色で表示しています。

大腸ポリープが、非腫瘍性または腫瘍性である可能性を推定し、リアルタイムに推定結果を表示します。
内視鏡画像内の推定している場所を、モニター右下のポジションマップに表示します。

外来・入院患者、人間ドック受診者の適正に応じて 本システムによる胃・大腸内視鏡検査を提供しております。

